

きいむんの どろ〜ちゅいむにい〜 - 第3回 - テーマ ハーリー

検索キーワード



ハーリー
爬竜船
屈原伝説
競漕

ハーリーは、沖縄で旧暦5月4日に行われる豊漁祈願、海上安全を目的とした競漕行事です。爬竜船の漕ぎ手達が息の合った櫂さばきでダイナミックに競う姿が魅力です。

東アジアから東南アジア（中国、香港、台湾、沖縄、タイ、ラオス、カンボジア、北ボルネオ、ベトナム）に分布しています。特にベトナムのものは沖縄とそっくりで、アジアのつながりを感じさせます。長崎のペーロンや天草の竜舟も競漕行事のひとつです。

起源は諸説ありますが、中国の屈原伝説に関係するといわれています。琉球の伝説では、14世紀に閩人三十六姓が伝えたとか、長濱太夫が中国南京の爬竜船を模倣して作ったという話などがあります。現在では那覇や糸満が盛大ですが、各地で神事として少人数で行われるハーリーもまた、大変風情があります。今年は6月12日にあたります。是非ご覧下さい。

かつては年に一度この時だけ、子どもは人形などのおもちゃを買ってもらえました。ハーリー船の張り子は、水に浮くので人気でした。引っ張ると仕掛けがカタカタと動く馬乗り人形などもあります。ハーリーは、大人も子どもも楽しみにしていた行事でした。

ハーリー伝説～世界で1番おいしいものは？～

あるとき、琉球国王が家来達に「一番おいしいものは何か？」と聞くと、家来の一人が「塩が一番うまい」と答えた。立腹した王は、その者を八重山へ流刑した。まもなく長雨となって餓死者が増え、王城も食料に事欠き、はじめてこの家来の言い分が正しいことを悟って呼び戻した。ハーリー舟3隻で迎えに来てくれという家来からの申し出により、那覇・泊・久米にハーリー舟を作らせて迎えに行かせた。その帰路、5月4日に、三重グスク付近でその家来が行方不明になった。そのためそれ以降、この日に彼の追善のためハーリーをするようになった。

(崎原恒新『ハンドブック 沖縄の年中行事』p79より抜粋)

デジタルアーカイブにみる王府時代のハーリー

宮良殿内文庫「文書綴」（1860年成立）には、王府時代のハーリー見物記が生き生きと記されています。当時を垣間見る貴重な資料です。

それによれば那覇のハーリーは、早朝から爬竜船3隻が出て、勇壮に競い、大勢の見物人は天幕や棧敷から見物しました。更に見物の遊覧船も出て、若者や華やかな遊女が大勢乗り、鉦や鼓、歌三味線などで華やかに遊んだとのこと。商人達は菓子やおもちゃを大量に販売していて、遊女達は美しく、浮き世の無類の見物だった、ということです。

(沖縄資料担当：S)

【参考文献】

『沖縄大百科事典』下巻 項目「ハーリー」 項目執筆者：源武雄 沖縄タイムス社 1983年
東京国立博物館編『東京国立博物館図版目録 琉球資料編』中央公論美術出版 2003年
宮良殿内文庫No6『文書綴』 松茂氏當宗書写 1860年 琉球大学附属図書館所蔵

○御手紙拝見今般爬竜舟御見物不被成候間以參
御喃可申上旨致承知候得共不快*ニ*有之其儀難叶先以
那覇之有様委細書付を以申上候爬竜舟三艘共
早天*より*漕出段々之勝負組有之私共我先*ニ*与*競望
其勢ひ既*ニ*龍蛇横たはて火吹煙を立たる如にして
喧嘩*ニ*茂*可及氣舞一入賑之敷有之見物之面々
首里那覇之衆*者*不及申田舎之面々老若男女共
大勢群集いたし幕屋棧敷等段々作懸見物被仕
方*茂*有之

○清見殿下見今般爬竜舟御見物不被成候間以參
御喃可申上旨致承知候得共不快*ニ*有之其儀難叶先以
那覇之有様委細書付を以申上候爬竜舟三艘共
早天*より*漕出段々之勝負組有之私共我先*ニ*与*競望
其勢ひ既*ニ*龍蛇横たはて火吹煙を立たる如にして
喧嘩*ニ*茂*可及氣舞一入賑之敷有之見物之面々
首里那覇之衆*者*不及申田舎之面々老若男女共
大勢群集いたし幕屋棧敷等段々作懸見物被仕
方*茂*有之